

## 平成29年度第1回山縣市公共交通会議 議事録概要

日 時 平成29年6月26日(月) 午前10時30分～

場 所 山縣市役所 3階 大会議室

### 会長あいさつ

#### 報告事項1 監事の指名について

○事務局：要綱8条に基づき、新監事に市自治会連合会副会長 大野朝義委員が指名され就任した。

#### 報告事項2 前回からの経過報告

○事務局：ハーバス伊自良線の運行ルート及びダイヤ変更に対する苦情等はなし。  
土日祝日限定ワンデーフリー乗車券(平成29年3月18日～5月21日)は、22,000枚販売され、うち2,800枚が山県市内で販売された。

#### 報告事項3 平成28年度決算について

○事務局：(資料1の説明)

#### 報告事項4 平成28年度決算監査報告について

○大野監事より決算監査結果の報告

#### 協議事項1 平成29年度予算について

○事務局：(資料2の説明)

○会長：この件について、事務局案のとおりとしてよろしいか？

○委員：(異議なし)

#### 協議事項2 地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について

○事務局：(資料3の説明)

○委員：事業の目標は連携計画に基づく目標という説明であったが、網形成計画との整合はとれているか？また、目標値は3ヵ年分記載して頂く必要がある。

○事務局：資料3に記載している値は、連携計画に基づく平成30年度の目標値である。平成31年、32年の目標値は網形成計画に基づいた数値を記載する。

○会長：この件について、事務局案のとおりとしてよろしいか？

○委員：(異議なし)

### 協議事項3 地域公共交通網形成計画(案)について

○事務局：(資料4の説明)

○委員：計画期間は5年が基本となっているため、10年とする場合は、その理由を記載しなければならない。

目標値は計画策定の段階で示されている必要がある。また、計画期間を10年とするならば、5年を目安に中間目標を定めて頂きたい。

実施スケジュールで利用促進事業が随時実施となっているが、最低限年〇回開催するなど、もう少し具体的にしたい。

バスターミナル整備にともなう路線再編事業は、活性化再生法に基づく再編実施計画の策定までは考えていない路線再編であるという認識でよいのか？

○事務局：網形成計画(案)における路線再編事業は、バスターミナルの完成とともに実施するもので、再編は数年先となる。計画期間を5年とした場合、再編を実施してから2、3年で計画が終了することになり、再編の効果等を十分に把握できないと考えたため、計画期間を10年としている。

利用促進事業の「随時実施」は、地域から要請があればいつでも対応するという意味合いで記載したが、年に1、2回などの具体的な数値も記載するよう検討する。

再編実施計画の策定は、視野に入れている。

○委員：再編実施計画の策定を検討しているならば、網形成計画にその旨を記載しなければならない。現時点で、再編実施計画を策定するとはっきりと決まっていなければ、再編実施計画策定のタイミングで網形成計画の変更手続きが必要となる。

○会長：路線再編事業で岐阜大学病院路線の運行があるが、これは現状で住民のニーズがあったから検討したのか、それとも将来的な需要を見越して検討したのか、はっきりさせた方がよいと思う。

- 事務局：岐阜バスの営業路線が運行していた伊自良地域では、強いニーズがある。また、連携計画策定時に各地区で開催した地域バス調整会議では、他の地区からも要望があった。しかし、実際に運行した場合の利用者数が想定できないため、実証実験を行うことも視野に入れている。
- 副会長：実際の運行までに地元との協議を重ねていくことになる。その結果は、再度この会議の場で説明が必要である。
- 事務局：高富、伊自良、大桑周辺では、現在、定時定路線が走っているが、デマンドの方がよいのではないかという声もある。どちらがよいのかというのは非常に悩みどころである。実際に通勤通学で使われている便をデマンドに変えてしまうと、利用者層が大きく変わってしまう恐れがあるため、定時定路線を維持しつつ必要に応じてデマンド型を検討していかなければならないと思っている。
- 会長：この案に基づいて、指摘されたところを修正し計画策定に向けて動いていきたいと思う。

#### 協議事項4 市町村運営有償運送（市町村福祉輸送）の更新について

- 事務局：(資料5の説明)
- 会長：この件について、更新するということでよろしいか？
- 委員：(異議なし)

#### その他 バスターミナルの整備について

- 事務局：(資料6の説明)
- 副会長：昨年度から検討を進め、具体化に向けて追加検討が必要な部分もあるが、大まかな方針は固まったと思う。  
従来とは違い、計画を策定するにあたり地域住民の意見をどう反映していくかが重要となる。連携計画策定時のように、地域毎の検討の場を大切にしていこうと、よりよい計画になると思う。

以上